



原六郎



三苗腹家もぐもぐ

嘉永六年（一八五三）
ペリーが浦賀に来航。
日本に開国を求める。



「独立自主の精神」

決して親兄弟を
当てにするな。



想像上のトセの肖像。

学問に精を出して
偉くなれ

幼くして母を亡くし、二十五歳年上の長姉
トセが母の代わりを務める。

天保十三年（一八四二）
十一月九日、但馬国
朝来郡佐中村
（兵庫県朝来市）
の豪農、進藤
大右衛門の六男
四女の末子として
生まれる。
名は長政、幼名
は俊三郎。



俊三郎の生家。「佐中の千年家」として残されている。



家業の製糸業を
手伝い、近くの村から
まゆの仕入れを行い、
商才を磨く。



池田草庵

安政二年（一八五五）養父郡宿南村（兵庫県
養父市）、池田草庵の漢学塾、青谿書院
入門。



青谿書院

安政五年（一八五八）井伊直
弼が幕府の大老に就任。
幕府は勅許を得ずにアメリカ、
オランダ、ロシア、イギリス、フランス
と日本にとって不利な修好通
商条約を結び、尊王攘夷
運動が激化。俊三郎もまた
大志を抱き、やがて師の意見とは
合わず、北垣晋太郎（国道後
の京都府知事）、西村格二郎
と共に青谿書院を去る。

＊天皇を尊ぶ「尊王」論と外国勢力の排斥を主張する「攘夷」論が結び付いた幕末の政治思想。

文久二年（一八六三）、
北垣、西村らと
沿岸防備のため
に農兵組織を
計画する。



小野藩校に
通い、国学者、
野之口（大國）
隆正の教えを
受ける。



野之口隆正

やや俊さんか、
まさか幽霊
ではあるまいね。



潜伏先の深高寺のお坊さん

幕府の追手から逃が
れ、京都へ向かう途中、
故郷に立ち寄り。

武器の運搬中に義孝
の壊滅を知る。



鎧
手槍



提灯
鎖帷子

文久三年（一八六三）生野
義孝に参加。大和（奈良）
良忠の天誅組の拳兵
に呼応して、但馬国生野
（朝来市）で、平野次郎
（国臣）、南八郎（河上
弥市）らと公卿・澤宣
嘉を擁して拳兵を企て、



山口招魂社
大正五年（一九一六）、義孝の
記念碑を建立。後に
護国神社となった。

京都で鳥取藩の松
田正人（道之、後の東京
府知事）や河田左久馬
（景与）の協力を得、
西村格二郎らと武器
調達に当たる。



南八郎



平野次郎

父兄に別れを告げ、
俊三郎は
生野の露と
消えたものと
諦めて下さい。
以後、原六郎と名乗る。

北垣晋太郎や西村哲二郎と江戸(東京)の北辰一刀流千葉重太郎の桶町道場や長州藩下屋敷で潜伏生活を送る。

千葉のもとで剣道を習い、

坂本龍馬と出会う。

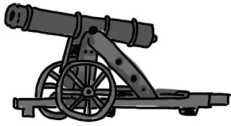
富国強兵の基礎は、
商工業の
発達にある。



坂本 龍馬

各地を転々としながら長州(山口県)へ。

偶然出会った
高杉晋作の紹介で、北垣と共に
長州藩に加わり、
慶応二年(一八六六)
小倉口で幕軍と戦う。



三田尻海軍学校で英
学を、



英語の文法書を毛筆で
半紙に書き写す。

山口明倫館で大村益次郎のもとフランス式兵学を学ぶ。



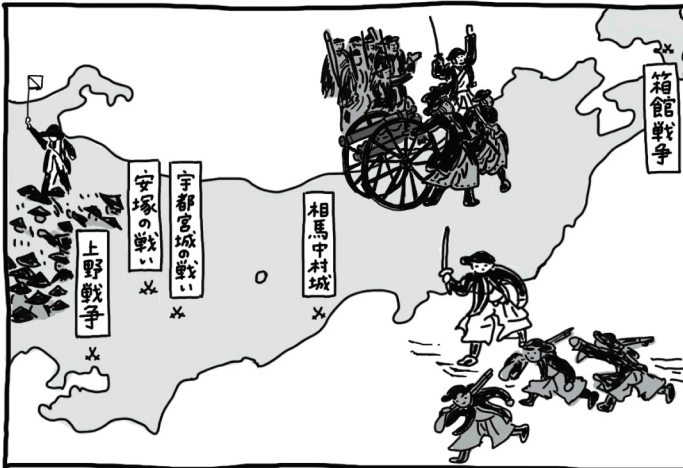
大村 益次郎

慶応三年(一八六七)王政復古の大号令により、世の中の形勢が徐々に変化。



幕府廃止
新政府樹立

翌五年一月、戊辰戦争が起これ、河田左久馬に従い鳥取藩の山田隊司令として、各地を転戦。やがて大村益次郎の命により、官軍の中隊司令官に抜擢され、奥羽征討に参加、箱館戦争まで戦う。



明治二年(一八六九)鳥取藩の藩籍に入り、
明治四年(一八七一)大隊長となる。



青年時代の原六郎

〃 武工になる 〃

明治四年(一八七一)二十九歳の時、政府の命で、鳥取藩より選抜され、池田徳潤と共に欧米視察へ派遣される。サンフランシスコに到着後、シカゴ、ニューヨーク、ワシントン

を視察。
ボストンに到着して間もなく、廃藩置県が実施され、給付が打ち切られる。大隊長と海外視察の任を辞し、自費で学ぶことに。



留学に数年
費やす覚悟!!

同年、父丈右衛門、姉千代、トセが腸チフスで相次いで亡くなる。

当時南北戦争のため紙幣が低落していることに着目し、日本から持ち参った貨幣を全て紙幣に換えて銀行に預ける。後に紙幣の価値が回復し、莫大な利益を得て、学問に専心する。



LEONE LEVI

直接殖産興業に携わることを国家に奉公する最善の道であると考え、実業家を目指す。

イェール大学で経済学を学び、その後イギリスに渡り、ロンドンのキングス・カレッジでレオン・レヴィのもと銀行学を修める。



富より経済

外遊中の井上馨が主宰する読書會に参加し、経済学書を輪読する。



小泉 信吉



中上 彦次郎



井上 馨



沖 守固



木崎 三郎

井上馨と宮岡製糸会社を設立する計画を立て、宮岡製糸場の払い下げを受けるため、明治十年(一八七七)に帰国。しかし実現には至らず。



原六郎が関
わった事業

明治の実業界に進出
商権回復運動の一翼を担う

銀行

明治十二年(一八七九)旧鳥取藩主池田家を中心として第一銀行を設立し頭取に就任。当時はまだ珍しかった為替事業に取り組み、さらに明治十三年(一八八〇)に小額預金を取り扱う最初の貯蓄専門の民間銀行、東京貯蔵銀行を開業、頭取を務める。

〓 勤儉貯蓄 〓



東京貯蔵銀行

横濱正金銀行

明治十六年(一八八三)大蔵卿松方正義の推挙により、危機的な状態に陥っていた横濱正金銀行の頭取に就任。巨額の欠損を整理し、正金銀行の役割と事業を明確にするため、特別法の横濱正金銀行条例の制定を申し入れ、主に海外荷為替の取り扱いに尽力し、経営を抜本的に改革し、再建した。



横濱正金銀行

協力と支援

松方正義による紙幣整理と連係しながら改革を進めた。

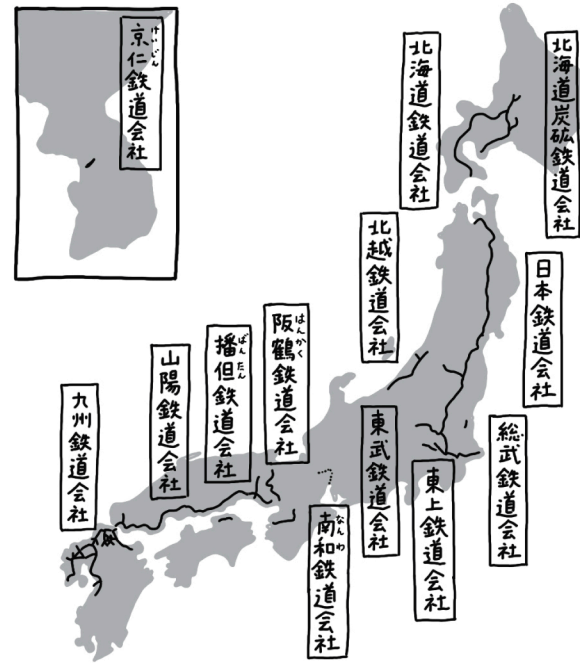


松方正義

明治二十三年(一八九〇)の頭取辞任後も、帝国商業銀行をはじめ台湾銀行、日本興業銀行の創立委員を務める。

鉄道

明治十四年(一八八二)設立の日本で最初の民営の鉄道会社、日本鉄道会社の発起人をはじめ多数の鉄道会社の発展に貢献。各社の株主や発起人、創立委員、取締役などとして経営に関わった。



鉱業

明治二十二年(一八八九)頃から晩年まで、採銅、採炭、採金などを手がける。鉱業に熱心に取り組み、なかでも豊前採炭会社をはじめとする九州各地での採炭事業に情熱を注いだ。



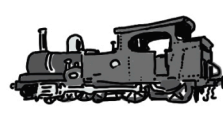
大任炭坑

その他の主な事業

各地で発電、紡績、ホテルなどの創業に関与した。



東京電燈会社



汽車製造合資会社



帝国ホテル



横浜船渠会社



猪苗代水力電気会社

日本財界五人男

その他に東洋汽船株式会社、富士製紙会社、富士紡績会社、台湾製糖会社、商況社、中外商業新報など。



岩間 進



大倉 喜八郎



安田 善次郎

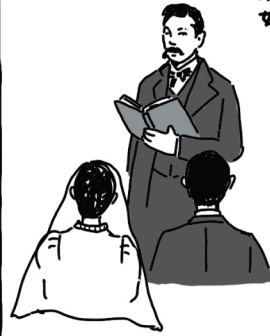


古河 市兵衛



原 六郎

明治二十二年（一八九一）二月二十五日、京都祇園中村橋で、新島襄の司式、北垣國道夫妻の媒酌により、奈良県古野の山林地主で「山林王」と呼ばれた土倉庄三郎の長女、富子と結婚。



純洋式の系帯婚式

教育や科学技術の振興に關しても熱心に取り組み、同志社大学や日本女子大学の創設や理科学研究所の設立に際し、多額の寄付を行うなど大々く貢献した。



同志社大学に寄付した学生寮
明治末には「原学寮」と呼ばれた。

明治二十四年（八九一）富子夫人同伴で三回目の外遊。アメリカ、イギリスを経て、インドに立ち寄り、インド綿輸入の交渉を行い、その後の日印貿易の糸口を開く。



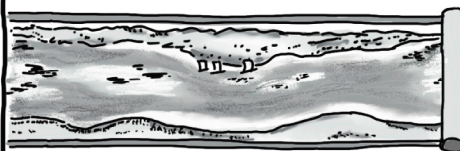
99.ブルーポの創始者
ジャムシエトジ・99と面会。

明治三、四十年代には近畿、九州方面へ訪れる機会が増え、その都度京都や奈良を訪れ、古美術の収集を行なうようになる。



青磁瓶 無花 瓶

〓 気に入ったものを買集める 〓



円山応挙「淀川両岸図巻」



狩野長信「花下遊楽園扇風」東京国立博物館

明治二十五年（八九三）東京品川御殿山の地所を井上勢吉の仲介で、西郷従道より買い取り、居を移す。春と秋には園遊会を催し、多くの友人知人を招き、桜や紅葉を楽しんだ。



楊梅記

熱海の別荘新館に描かれた六郎自筆「観海楼」の額。

晩年はほとんどの時間を熱海の別荘「観海楼」で過ごした。観海は六郎の号で、孟子の一節に由来する。
孟子曰、孔子登東山而小魯、登太山而小天下。故觀於海者難為水、遊聖人之門者難為言。
（『孟子』盡心章句上二十四章）
孟子は言った。孔子は東山に登って魯の国を小さいと感じ、泰山に登って天下を小さいと感じた。だから海を見た者は川を大したものと思わないし、聖人の門で学んだ者は、たいていの言論は大したものと思わない。



内村鑑三の講演に熱心に耳を傾けた。

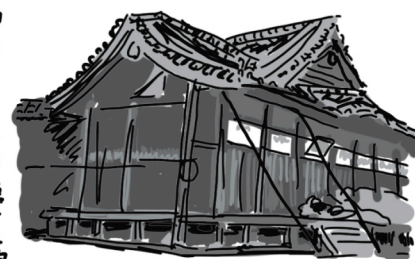
大正十一年（一九二二）熱海の別荘にてキリスト教の洗礼を受ける。明治初年の米國留學時にまかれた信仰の種は、同志社女学校でキリスト教主義の精神に基づいた教育を受けた富子との結婚を機に成長し、やがて実を結んだ。

建物ごと譲り受け、建物は御殿山邸内に移築、障壁画は軸装した。



素晴らしい
何とかして手に入れ
大切に保存したい。

同じ頃、滋賀県大津市の園城寺（三井寺）の塔頭日光院客殿を訪れ、焚火果てた建物の中にある襖の絵に敬慕。



慶長館

昭和三年（一九二八）慶長館は護国寺に移築、移築され、月光殿と改称された。

＊障子、襖、屏風などに描かれた絵画

桃山時代の書院様式を伝える建物は、慶長年間（一六〇四～一六一五）に修理した痕跡があったため、慶長館と呼ばれ、収集した古美術を陳列し、接客に使用された。



富子の同志社女学校時代の師、金森通倫が最後の祈りを捧げた。

昭和八年（一九三三）十一月十四日、近親者に見守られながら、息を引き取った。九十二歳。